

ミニトマト博士になろう

高静小学校の子供たちが見学に来ました

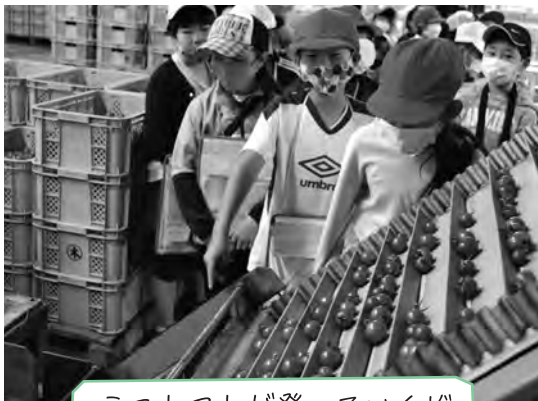
J A しずない青年部（部長 菊地慶さん）の活動として食育授業で訪れた高静小学校から、ミニトマト農家さんのハウスや選果場を見学したいとの依頼がありました。食育授業の際に協力頂いた、石井英治さんは収穫繁忙期にもかかわらず、子供たちのためであればとのご厚意で、10月5日に見学授業が実施されました。

選果場では外で選果の概要説明を真剣に静かに聞いてくれた子供たちですが、「ミニトマトは好きですか。たくさん食べたいですか。」との質問に対し大きな声で「はい！」と返事をしてくれました。

選果場内では選果台に流れてきたミニトマトの中から、ヘタの取れたもの、身が割れているものを取り除く作業、サイズ別に箱に入れられ、出荷待ちの状態になるところまで見学しました。大きな音を立てて動く選果機、そこか



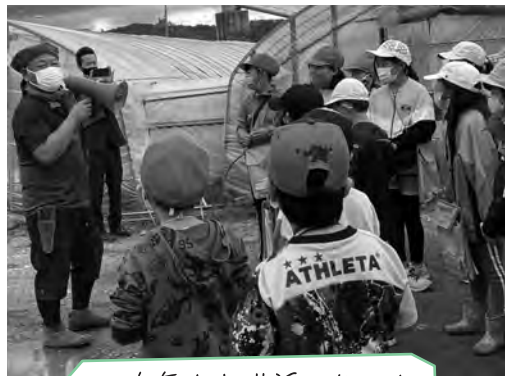
二つがくっついたミニトマトを見つけました！



ミニトマトが登っていくぞ



パートさんにも色々質問しました



一昨年もお世話になった石井さんです

ら飛び出して落ちているミニトマト、規格外のものも小さなミニトマトや二つが一つにくっついたミニトマト、職員が乗っているフォークリフト、頭上を流れていくミニトマトを入れる箱、ただ置いてあるだけのブリキのバケツにまで興味津々で質問が止むことはなく、子供たちの手に持っている大きなメモ帳にはたくさんの字が並び、真っ黒になっていました。なかには「僕のお母さんはミニトマト農家にパートに行っているんだ。」と教えてくれた子もいました。

石井さんのハウス見学では、収穫時期のハウス棟を用意して頂き、収穫を行いました。またご厚意で取ったものを食べてもよいとのことだったので、新鮮なミニトマトを沢山食べ、笑顔がいっぱいでした。「私はミニトマトが大好きで何個でも食べられるんだ。」「お腹がいっぱいでもう食べられないよ。」「話しをしてくれる子、僕たちが作ったミニトマトとは全然違う。」「というような発見のあった子もいました。

この「コロナ禍で教育の現場においては、休校等で思い通りに授業が進まず、課外活動の機会もとても少なくなってしまうっておりますが、新型コロナウイルス感染症の動向を見据え、可能な限り対応し、少しでも子供たちの学べる環境を作っていけたらと考えております